

第 30 回堺市新型コロナウイルス対策本部会議議事要旨

- 日 時：令和 3 年 9 月 10 日（金） 午後 1 時～1 時 50 分
場 所：堺市役所本館 4 階 秘書課会議室 堺市役所本館 3 階 大会議室
(2 会場をテレビ会議システムでリモート接続のうえ開催)
議 題：1. 本市の新型コロナウイルス感染症患者の状況等について
2. 大阪府の要請内容等について
3. 国・大阪府の対応を踏まえた今後の本市の対応について
4. 本市のワクチン接種の状況について
5. その他

【開会にあたり市長より】

- ・本市の感染状況は、7 月に入ってから増加傾向となり、8 月中旬以降に一気に拡大し、日々の新規陽性者数が 200 人を超える状況の中で過去最多の新規陽性者数も記録した。8 月末から現在にかけて、ようやくやや減少傾向に入っている。
- ・この間の市民・市内事業者の皆様のご理解とご協力、医療従事者をはじめとしたコロナ対応にあたる全ての皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。
- ・一方で、入院者・重症者に関しては新規陽性者数のピークを過ぎても増加する傾向にある。ここで気を緩めれば再び感染の拡大局面に入り、医療体制の逼迫にさらに拍車をかけることとなるので、この間の対策が特に重要と考えている。
- ・緊急事態宣言期間が 9 月 30 日まで延長されることとなった。堺市の新規陽性者数は、やや減少傾向にあるとはいえ、対策を緩めることなく、これまでの対策をさらに浸透するよう取り組んでいく。
- ・本日の会議では、9 月 30 日までの緊急事態宣言期間中の対応について協議したい。

【議題説明及び質疑】

1. 本市の新型コロナウイルス感染症患者の状況等について (健康福祉局長)

(※資料 1-1、1-2 参照)

- ・新規陽性者に対するファーストタッチを速やかに行うとともに、疫学調査の効率化を図るため保健師・看護師の人材を拡充し、体制強化を図った。

(中野副市長)

- ・現在の最大の課題は、ピークを超え減少傾向にある第 5 波を早く下りきること。
- ・陽性者が増えると疫学調査以外に自宅療養者の健康観察にも非常に業務が増えてくる。自宅で亡くなる方を生じさせず適切な医療につなげることが保健所の役割であるので、無いことが望ましいが、今以上に事態が悪化した場合も念頭に置いて対応を検討しておく必要があると考える。

2. 大阪府の要請内容等について (危機管理監)

(※資料 2 参照)

3. 国・大阪府の対応を踏まえた今後の本市の対応について (危機管理監)

(※資料 3 参照)

(市長)

- ・感染対策の意識と行動が重要であることは変わらない。重要なのは市民や企業への呼びかけにどう実効性を持たせるか。具体的に理由や場面を示しながら実際の感染防止の行動につながるよう呼びかけなければならない。
- ・また、呼びかけを行動に移すことのできる環境が重要。個人に体調が悪い時は休むよう呼びかけても、職場の雰囲気は休むことを許さなければ行動に移せない。
- ・私たち行政の職場はもちろん、民間事業者の皆様にも対応できる職場の雰囲気を作っているだけよう協議を行うことで、呼びかけの内容を実施できる環境を整えたい。
- ・通知や呼びかけは一方的になりがち。正しく実行されるところまで責任をもって取り組んでもらいたい。

4. 本市のワクチン接種の状況について (健康福祉局理事)

(※資料 4 参照)

- ・現在も個別接種会場では予約を受け付けており、市内約 50 か所の医療機関で予約が可能となっている。接種を希望する対象者へ 10 月末までの接種完了が実現する見込みである。

(市長)

- ・ワクチン接種は、医療従事者や関係者の皆様の多大なご協力により円滑に進められている。
- ・一方で、個別接種会場での接種を希望される市民の方が空いている医療機関を探すことが難しい、希望する曜日や日時が合わないというようなミスマッチが発生することが懸念される。
- ・今後の状況を正確に把握し、効率的に接種を進められる仕組みを構築することが必要。
- ・ワクチンの接種を迅速に進めている最大の目的は、1 人でも多くの市民の皆様を命を救い、1 日でも早くコロナを収束させるためである。
- ・これまでも臨機応変に対応してきたが、気を緩めることなく、ラストスパートをかけ、さらに効果的・効率的なワクチン接種を進めるように。

【閉会にあたり市長より】

- ・現在の本市の感染状況はやや減少傾向にあることに加え、抗体カクテル療法といった効果が見込まれる治療法も導入が進められている。今回延長された緊急事態宣言の期間が第 5 波を抑える上で最重要であると認識している。
- ・緊急事態宣言も長期となっているが、全ての職員が市民の皆様を模範となるよう、本部員をはじめとして部下とも確実に認識を共有し、気を緩めることなく感染対策の意識と行動を徹底するように。